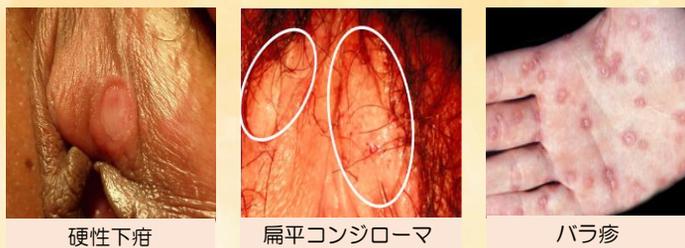


梅毒が急増しています



先天性梅毒も急増！



このような症状を認めたらすぐに医療機関を受診し検査を受けましょう

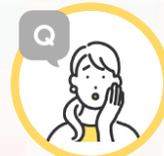
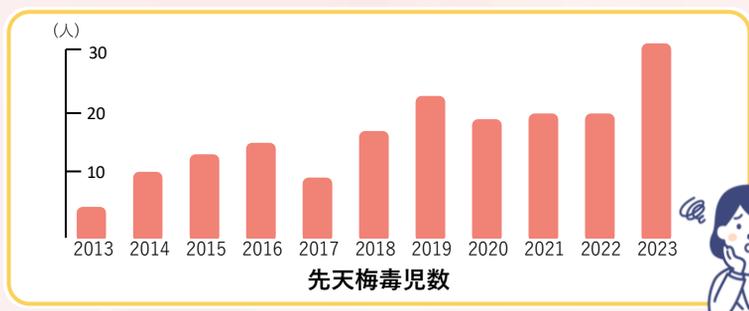
梅毒とは 梅毒トレポネーマという細菌が性的接触を介して感染します。性器と性器性器と肛門（アナルセックス）性器と口（オーラルセックス）など粘膜や皮膚が梅毒の病変部位と直接接触することで感染します。

発症時期にわけた症状

- 第1期：感染～約1ヶ月前後**
口唇、口腔咽頭粘膜、陰部周辺、肛門周辺などにしこり、びらん、潰瘍などの病変ができます。鼠径部のリンパ節も腫れますが、発熱はありません。
- 第2期：約1～3ヶ月前後**
皮膚に紅斑(=バラ疹)、しこり(=扁平コンジローマ)丘疹(梅毒疹)、脱毛斑などがみられます。
- 第3期：感染から数年から数十年かけて**
心血管症状、ゴム腫、進行麻痺、脊髄癆など、臓器が梅毒で侵された症状が出現します。

発症時期に関係ない症状

- 神経梅毒**
精神神経症状(精神症状や認知症のような症状)が出現します。全ての時期で発症しうるものです。
- 先天梅毒**
梅毒に感染しているのに未治療のまま妊娠すると子宮内の胎児に梅毒が感染することがあります。



いつ検査を受ければいいのでしょうか？

A

左上図の様な症状に心当たりのある方は、梅毒抗体検査を受けてください。この症状は、無治療でも消えますが、症状がなくなっても治ったわけではなく、性交渉の相手に感染させてしまいます。



症状がない場合は検査不要でしょうか？

A

不特定の相手との性交渉やコンドームを着用しない等のリスクのある性行動があった場合は梅毒抗体検査を受けることをお勧めします。



梅毒にかかったら治らないのでしょうか？

A

梅毒は、薬を内服または1～3回注射するだけで完治できます。決して怖い病気ではありません。検査を受けて治療を使用することによってご自身の為にもなり、他人への感染も避けられます。